

第 16 回蒲田都市づくり推進会議（書面開催）にて頂いたご意見

議事 1：改定蒲田駅周辺地区グランドデザイン骨子（案）について

	意見要旨	区の考え方
1	蒲田は交通結節上、重要な位置にあることから、10年の変化の中には区が策定した交通政策基本計画などもあり、位置付けに加えることも考えられる。	ご意見を踏まえ反映します。なお、区はもとより国・都の上位関連計画を踏まえグランドデザインの検討を進めているところです。
2	まちの将来像（5頁）に示されたイメージ図の中段のイメージは、いかがなものか。蒲田駅周辺で目指す姿ではない。	今後、誤解が生じないようにイメージ図を修正してまいります。
3	新たに取り組むべき事項（基本方針2）を矛盾なく進めるための具体策が検討されるべき。	具体策（アクションプラン）を見据えて骨子の検討を進めてまいりましたが、引き続き検討の深度化を図り、アクションプランについては素案で示してまいります。
4	全体的にポイントは網羅されているが、13の目標には相反するものがあり両立させる具体策や蒲田の魅力を創出する「戦略と実現方法」が不明。	
5	蒲田の将来に大きく関わる新空港線の実現に備え、対応するまちの将来像を今から深く研究していく必要がある。	蒲田のまちづくりにおいて、新空港線整備は重要な要素です。引続き、新空港線整備を見据え検討してまいります。
6	商店街のメイン通りに面した建物の新築計画には、商業を低層階に配置する努力目標などを区の建築審査課の段階で示して欲しい。	商店街など商業が集積するエリアにおいては、商業の連続性を保つ必要があると考えています。素案のアクションプランにおいて表現できるように検討してまいります。
7	外国人の増加に伴い、外国人居住者も地域コミュニティに参加してもらいたい。特に発災時などには有効に活用できるのではないかな。	災害における互助・共助を促進することをはじめ、全ての居住者が居心地良く過ごし、地元の人と交流を育むことは必要であり、地域コミュニティの重要性は認識しております。素案のアクションプランにおいて表現できるように検討してまいります。
8	商業ベースで考えると特にここ数年、お客様の買物のニーズが変化し、通販電子商取引等により商店街の不要論まである。 特に昨年コロナ禍以来、外出自粛のみならず流通業界も大変化している。	社会構造や消費者ニーズが変化し、競争が激化している状況ではありますが、イベント実施や商業環境の整備など公民が連携して取り組むことで、商業のまち蒲田の活力を維持していくことが必要であると認識しております。引き続き、アクションプランの中で検討してまいります。
9	蒲田線問題も新空港線は蒲田の街にとっては大きな変革である。JRは、東京駅→羽田空港（19k）を18分で結ぶ羽田空港アクセス	新空港線の早期実現に向け、令和2年3月に都知事から提案を受け開催している「協議の場」において、都区の費用負担割合等の課題

	線を 2029 年までに開通するようだ。	についての検討を着実に進め、早期に合意形成を図ってまいります。
10	蒲田と国際空港羽田を結ぶ（首管の太い血管が無い）連絡手段が絶対である。（JR・東急蒲田⇄京浜蒲田がつながる）	
11	まちの将来像に「安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田」、「にぎやかあふれる多文化都市」とあるが、実現したい。	将来像の実現に向け、実効性あるランドデザインとするため、地域の方のご意見いただきながらランドデザインを改定の検討を進めてまいります。
12	区の中心的位置に当たる JR・東急蒲田駅の開発が（空港線を含め）他の区より遅れてしまっている。東西自由通路が実現出来ないまま来ていることは残念である。	現在、東西自由通路など基盤施設の一体的な整備に向け、有識者や鉄道事業者等と蒲田駅周辺地区基盤整備研究会を設置し検討を進めており、引続き実現に向け着実に推進してまいります。
13	理想は両東西駅ビル建直し、十分な自由通路の幅を保つこと。	現在、東西自由通路の整備に向け JR 東日本と基礎調査設計を進めています。
14	「蒲田に求められる役割」に、「広域的な拠点性を高める機能強化」とあるが、都心・副都心や周囲の拠点との差別化を図る役割や魅力を明確にすることに加え「大田区の中核として生活、文化、産業、イメージをリードする」役割も加えたい。	独自性（差別化）を持ち地域を牽引（リード）することが求められていることから、ご意見を踏まえ反映します。
15	将来像のイメージについてはワクワクする楽しい雰囲気や、蒲田の売物（U. S. P）がイメージできるものになりたい。	将来像については、現行ランドデザインの将来像を踏襲しつつも、今後の魅力あるまちづくりを視野に入れ検討しております。引続き、地域の方のご意見をいただきながらランドデザインにおいて地域の独自性を表現できるよう検討してまいります。
16	イメージが変わらないよう、蒲田西口駅前まちづくりを参考にすること。	まちの強みは活かし、弱みは改善するなど蒲田の特徴を踏まえたまちづくりに向け、引続き検討してまいります。
17	UDタクシー乗り場を作って欲しい。	駅前空間整備にあたっては、ユニバーサルデザインに基づく整備計画が不可欠である一方、限られた空間の中で交通結節機能の向上を図る必要があるため、引き続きタクシー事業者などとも連携し、総合的な視点で検討してまいります。

議事 2：蒲田駅周辺地区ランドデザイン範囲における動向について

	意見要旨	区の考え方
1	J R・東急蒲田駅東口では、再開発が進んでいることから改札レベル階からのフラット	検討を進めている東西自由通路からまちへの接続方法については、蒲田地区全体にとっ

	なアクセスなども検討対象になる。未来の蒲田東口にとって良い方向で議論が進むことを期待する。	て重要な課題であると認識しております。駅に集まる人やにぎわいをまち全体に波及させるため、引続き蒲田駅周辺地区基盤整備研究会等において検討してまいります。
2	東西自由通路はJR・東急駅ビルの建替えと同時期でなければ実現が難しいが、多くの人々が利便性を感じられる設計にして欲しい。	交通結節点として利便性の高い基盤施設となるよう、引続き蒲田駅周辺地区基盤整備研究会等において検討してまいります。
3	新空港線はもっと早く進めて欲しい。	新空港線の早期実現に向け、令和2年3月に都知事から提案を受け開催している「協議の場」において、都区の費用負担割合等の課題についての検討を着実に進め、早期に合意形成を図ってまいります。
4	東西自由通路整備について現在のコンコースを倍くらいに広げること。	将来の歩行者交通量を予測し、適切なサービス水準が確保できるよう、必要な幅員について検討を進めてまいります。
5	JR・東急蒲田駅の東西自由通路や市街地再開発事業等が実現すれば東口は街の繁華街が変わる	各事業の実現に向け、整備主体などの関係者と連携・調整を図ってまいります。
6	「戦略と実現方法」にはGDと個別の公共事業および民間の再開発をつなげるための「戦略的デザイン指針」が必要。また、具体的な計画が出てきたときにはデザイン調整会議のような常設の会議体を作って対応して欲しい。	まち全体に統一感が生まれるよう、有識者などを始め様々な関係者からご意見をいただきながら手法等について研究してまいります。
7	官民が協働できるエリアマネジメント組織の組成を考えるべきではないか。	良好な環境や地域の維持向上を図るうえでエリアマネジメントは重要な取り組みであると認識しております。住民・事業者等による自主的な取り組みに対する連携や支援策等について研究してまいります。
8	コロナ禍によりリモートワークが定着し始めている中で、東口駅前にオフィスの需要がどこまであるか気がかりだ。	羽田空港との近接性や新空港線整備により蒲田のポテンシャルは高いと考えております。新型コロナウイルス感染拡大により、産業・業務にも大きな変化が生じていますが、蒲田の特徴である複合市街地の維持向上を図るため、状況を見極めながら、まちづくりを柔軟に進めてまいります。
9	JR 蒲田駅東口駅前地区市街地再開発準備組合について、東急が事業協力者になったことは良い。	事業の実現に向け、地権者はもとより、周辺住民や地域の声を十分踏まえ、合意形成を図っていくよう、区として働きかけると共に引
10	JR 蒲田駅東口中央地区市街地再開発準備組合について、早く進展があり再開できるよう	続き連携してまいります。

	願っている	
11	JR 蒲田駅東口中央地区市街地再開発準備組合は進捗していないと言われているので心配している。	

議事3：蒲田駅周辺地区基盤整備研究会について

	意見要旨	区の考え方
1	「次世代交通を見据えた快適な移動環境」は大変結構だと思うが、具体的に「整備の方向性」としてどのように受け止めるのか検討が必要	国交省が設置する「都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会」等の最新の技術動向を踏まえ検討してまいります。
2	歩行者を重視する視点が明確なのは結構だが、その実現のためには、自転車は車道に空間を設置する計画がすでに定められていることから、その実現と効果を高める取り組みが重要になるだろう。	大田区自転車ネットワーク整備実施計画等の計画を踏まえ、取り組みについて検討してまいります。
3	より良い基盤整備方針案がランドデザインへ反映されることを期待している	引続き、蒲田駅周辺地区基盤整備研究会において検討を進めてまいります。
4	東西駅前広場の初動期整備は進んでいるが、東西グランデュオ、東急プラザ等の再開発の動向が分からない。	J R・東急蒲田駅舎を含む駅ビル事業については、基本的に事業者の意向により展開するものと考えていますが、必要に応じて調整を図ってまいります。
5	J R 蒲田駅駅ビルの東館西館共に 50 年以上経過しているが、起因となるものがない限り、今後 10 年建て替えが進まないと思う。	
6	東口駅ビルは昭和 37 年竣工、西口駅ビルは昭和 43・45 年に竣工した建築物である。しっかりとした計画を J R と立案し協議することが、両駅ビル（東西一体化）のかなめである。	
7	J R・東急蒲田駅の改修は、まちづくりの心臓となる最大の「戦略的プロジェクト」。まちづくりの視点から柔軟で思い切った検討を期待したい。	基盤整備方針の検討に際しては、駅直近だけでなく駅周辺の課題や特徴を把握、蒲田地区全体を見据えた柔軟な計画となるよう検討を進めてまいります。
8	オール蒲田（西口・東口・京浜蒲田）としてのまちの魅力づくりが大切である。	ご意見のとおり、地区全体が一体となって魅力やまちづくりを行うことが重要であると認識しております。
9	在住者・通勤者・来街者すべてにアピールできるポイントがより多くなるようなまちづくりへの検討を期待する。	中心拠点として、交通結節点として、まちの強みや特徴を活かしたまちづくりに向けて引続き検討してまいります。
10	J R 蒲田駅周辺事業は、大変だろうが街が変	

	貌する事であるため、期待している。	
11	駅前広場について、初動期整備との関係や交通結節点に必要な機能（需要）について整理のうえ、検討を深度化されたい。	ご意見を踏まえ、引続き検討を進めてまいります。
12	自由通路からまちに至る、歩行者動線の望ましいあり方を整理されたい。	
13	自転車駐車場について、周辺街区整備動向も踏まえて数量&配置について整理されたい。	

その他

	意見要旨	区の考え方
1	素晴らしいまちになることを期待している。	将来像実現に向け、引続き検討を進めてまいります。
2	地域と行政の連携をしっかりとしながら計画的な都市づくりになる様、よろしく願いたい。	まちづくりは、行政・地域住民・事業者等が連携して取り組むことが重要であることから、計画の策定段階から区民参画の機会を設け、ご意見をいただきながら検討を進めてまいります。